

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 木曾の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和4年10月17日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_022_kanji=true&fy_gyosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

<p>①現在、看護師3名、准看護師2名在籍。各ホームに看護師を配置(月に、70時間から80時間を看護師として従事、それ以外は介護士として従事)。各ホームの担当看護師としての責任も生まれ、利用者様の異変に早急に対応できる等、医療体制が充実してきている。</p> <p>②リハビリを、主治医からの指示、又はご希望される方は、外部による訪問リハビリを行っている。</p> <p>③施設敷地が広い事により、畑、花壇等積極的に、利用者様に取り組んで頂いている。</p> <p>④地域の方による交流として、布遊びの会、ももなの会等で当施設をご利用。その際、邪魔にならない程度で参加、見学をさせて頂いている。</p>

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

<p>職員は、自分の価値観を押し付けないよう常に介護される視点で考え、人としての尊厳を大切にしながら取り組んでいる。利用者の内面を良く観て一人ひとりの思いに寄り添っている。便りの他に担当職員が、毎月利用者の様子を手紙で知らせ家族との信頼関係を築いている。利用者には、家事仕事や畑仕事、編み物や裁縫など活躍する場面が多くあり、楽しみや張り合いのある暮らしの支援をしている。地域住民とは、森林整備など地域の問題を一緒に考え、地域活動の場所を提供するなど地域の中で一緒に生活していることを知ってもらえるよう努めている。看護師の配置が充足し、かかりつけ医・協力医共に往診も可能で医療体制が充実しており、家族と職員の安心に繋がっている。管理者は現場を理解し、職員の心が満たされていないと介護の質が上がらないとの思いからストレスを溜めないよう働きやすい環境作りに努めている。</p>

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	利用者様尊厳を尊重し、尊厳を生かしたケア実践を心がけています。工夫・提案、必要に応じて家族の協力もお願いしている。	利用者の内面的なところを理解して介護される立場になって考え、人としての尊厳を大切にケアに取り組んでいる。会議で日々のケアを振り返り気付きなどを話し合っ、理念の共有と実践につなげている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナの影響により、現在では地域との接触はあまりないですが、今後状況を鑑みながら進めて行きます。	散歩時に挨拶を交わしたり、森林整備などの地域の問題を話し合ったりしている。近所のサークル仲間が集まる時に場所を提供し、利用者が参加することもある。地域の人々と一緒に生活をしていることを知ってもらえるよう努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	学生ボランティアや校外学習などの学校行事を積極的に受入てきましたが、コロナの影響で一時中断しています。状況次第で再開予定。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は一時中断しております。社内においては、毎月実施し、その内容を記した書面は関係者に公開しています。	事業所の現状報告を関係者に郵送する書面会議を2・3か月ごとに実施している。行政より対面会議の希望もあり、管理者は今後の運営推進会議を有意義な会議にしたいと考えている。	運営推進会議が有意義なものとなるよう、さらなる工夫を期待する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	地域ケア会議は月に一度開催参加し地域情報の収集に努めています。	町や広域連合・警察・医師など多職種の人々が参加する地域ケア会議に参加し、地域の情報を得て意見交換をしている。困りごとの相談をしたり、入居の依頼を受けたりして協力関係を築いている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束委員会を毎月実施し、疑わしい行為は、皆で共有し検討している。スピーチロック等の見極めは難しく、介護者の心の持ち方により変わる事もしばしば見られる。又、そのケースを全員に伝え共通認識として捉えている。	身体拘束適正委員会や研修会を定期的開催し、拘束をしないケアの再確認を行っている。無意識で過度な対応をしていないかなど問いかけ、自分で気づいて改善するように働きかけている。様々なケースを話し合い、全職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	現状は、外部講師等の勉強会は実施していません。委員会等での社内研修として、出来る事を行っています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	過去に、成年後見制度を利用している利用者様が在籍していたこともあり、職員に制度の認知は出来ていると感じる。町より資料を頂く事が有り、全員に周知する様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者様・ご家族様と本音で膝を突き合わせて話し合いをし、その上で納得して頂いた状態で契約締結を行うようにしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族様や利用者様との関わりを大切に、信頼関係の構築に努めている。毎月担当職員が利用者様の様子を手紙に書いて郵送したり、毎月のお便りも明るく楽しい雰囲気が出るよう工夫している。	利用者とは日々の会話の中で、家族とは事業所の通信や利用者の様子を知らせる手紙を送った時に意見や要望を聞いている。コロナ対策を行ったうえで別棟の面会室で面会を行ない、その際にも話を聞いて対応している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日頃から職員とのコミュニケーションを図り、相談室を設け、話し易い雰囲気や機会を作り関係維持するよう心掛けている。	管理者は職員と話しやすい関係を築き、日頃から個人的なことも含め意見や要望を聞いている。介護方法などの意見は会議で話し合っ対応している。レクリエーションは年間予算を計上して職員が自由に発案・計画している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員同士のバランスに配慮し職員配置をしている。指導体制が行き届くように配慮されており、職員の意識向上に繋がるよう工夫しています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	スキルアップ・資格取得の支援・研修参加の支援を行い、積極的に取り組める体制をとっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナの影響で、他社様との交流は控えています。状況を考慮し再開したいと考えています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	利用者様の話を傾聴し、安心して暮らせる雰囲気造りを大切にし、早い段階で方向性を定め不安を抱かせない。「何故」を繰り返し進歩していきたいと考えています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	初期に利用者本人様の情報を引き出し、自然な流れで意見や要望・希望などを細かく聞き出す為に、家族様に相談・協力を行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	初期には、主に家族様のサービスに対する希望・要望が表面化することが多いが、それだけを鵜呑みにせずサービスを受けている利用者様の様子等から適格に判断するよう心掛けています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員側思考介護ではなく、利用者様と共に行う姿勢で、過ごせる様に努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者本人様を支援する者としての関係性を保っていけるよう、ご家族様とも互いに率直に意見交換できる関係性の構築に努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	コロナ禍により外部接触が困難な状況です。又、外出が困難な方もみえる為、馴染みのものを出来るだけ施設生活の中に取り入れる工夫をしている。	コロナ禍で馴染みの場所へ行くことは出来なくなりましたが、写真や動画を使って昔の生活拠点の地図を見ながら、思い出話をする機会を増やしている。電話の取次ぎや手紙を出す支援もしている。家族の協力で馴染みの美容院へ行く人もいる。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者の生活暦やADLに応じ、利用者同士の関係性が生まれやすい環境造り、又はイベント、作品作り等を常に検討している。座席配置などの工夫もしている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、連絡が出来る様に記録は残している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様のこれまでの生活歴や日々の生活の中での何気ない会話や表情、動作等から暮らし方の希望、思いや意向を探り、職員同士が検討共有し、ケアへ反映していけるよう努めている。	家族からの情報や生活歴、日々の会話や表情を見て希望や意向を把握している。会議で些細なことも具体的に話し合いケアに反映させている。編み物や裁縫がしたい、花を育てたいなどの希望に添えるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人様を始め、家族様からの聞き取りを参考とし、これまでの生活歴や生活環境、本人様の趣味や趣向等を把握出来るように努めている。また日常生活の中での会話等からも情報が得られるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の1日の過ごし方を把握する為、24時間シートを作成している。月毎にADL、モニタリングのチェック表を活用し、本人様の現状把握にチームとして連携し努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者毎に担当職員を設け、月毎に開催するユニットでの会議、サービス担当者会議でケアマネージャー、介護職員が家族様、本人様の思いや意見を取り入れ、その人らしい介護計画書の作成に努めている。	本人・家族の要望を聞き、担当職員が行うモニタリングとユニット会議での意見を基に担当者会議で話し合って介護計画の見直しをしている。医師の意見を取り入れることもある。状態に変化があれば見直し、必要に応じて変更している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者個々にケース記録を作成し、ケアの実践状況、気づきや工夫を詳細に記入している。独自の申し送りノートや業務日誌を活用し、職員同士が情報の共有が行えるように努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個々のニーズや生活歴に応じ、馴染みの活動機会の提供(戸外での剪定・畑・花壇・草取り)(戸内での裁縫や洗濯・料理などの家事)を積極的に取り入れるようにしている。職員の思い込みを無くすために、定期的に話し合いをしています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	介護予防拠点しずやまは使用を自粛しています。状況を考慮し、今後、進めていきたいと考えています。施設利用者は、三密を回避し利用している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設のかかりつけ医以外でも本人様のかかりつけ医の往診も一部で実施しています。家族様の希望に沿って対応している。基本的にはご家族様対応で受診に対応して頂いています。	本人・家族の希望でかかりつけ医を決めている。受診時は口頭か医師にコメントを記載してもらえ、書面で様子を伝え受診後、結果を確認している。夜間の緊急時は家族に連絡して職員が同行している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活の中で気づいた情報を医師にケア記録、バイタルリンク(医師、家族、職員が同時に意思疎通できるタブレット端末)を導入し、本人様に適切な受診や看護が受けられるよう支援しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	利用者が入退院する際は介護サマリーを作成し、病院関係者へ出来るだけ詳細に利用者の情報提供を行い医療機関と連携を図っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人様の意思表示が行える段階から終末期の過ごし方について本人様と家族様で話ができるよう家族様に働きかけている。また、施設の性質上、医療依存度が高くなるにつれ対応が困難になっていく旨を、入所前に説明することで本人様や家族様にとって具体的に捉えるきっかけとなれるよう努めている。	契約時に重度化や看取りに関する指針とターミナルケアの説明をして、意向の確認をしている。状態の変化に応じて医師と相談しながら、家族の要望に添うよう今後の方針を話し合い情報を共有している。転所を希望される人には、医療や介護施設の情報を提供し関係者とも連絡を取り合っ、転所されるまで安心して過ごせるように事業所の出来る限りの支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時や事故発生時のマニュアルを作成し、各ユニットに配布してある。緊急救急対応等の勉強会を看護師・ケアマネを中心に施設内にて開催し急変時の対応に備えている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	定期的に防災委員会を設置し、施設全体で避難訓練や消火器の取り扱いの勉強会を行っています。災害時、地域より協力が得られるよう、自治会にお願いをしています。	水・食糧などの備蓄を完備している。火災と土砂災害の同時発生を想定した訓練を行った。夜間想定訓練はコロナ禍(第8波)のため延期している。地域の人と土砂災害を含めた災害について話し合い、協力関係を築いている。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の尊厳を大切にすることを職員会議やホーム会議等で話し合い職員同士で徹底しています。年長者としての当然の配慮、介護側の有利な立場の悪用等。	尊厳を大切にすることは理念であり、常に話し合っている。適切な言葉かけや対応を意識するように心がけている。居室入口に暖簾をかけプライバシーに配慮している。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の思いや希望については、可能な限り「ひとまずやってみる」という意識で温かく見守りの精神でケアの工夫に努めています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	施設側のルールを優先するのではなく、共同生活のルールを遵守しながら職員同士が連携し業務を行い、利用者個々のリズムを尊重できるよう努めています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	利用者様と一緒に洋服を選び、季節感のある洋服を選択して頂いたり、本人様が好んでいる服を選択することで、その人らしい身だしなみやおしゃれが出来るよう、心がけています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	家事参加等の支援に力を入れ、食事形態の可能な範囲で、普通食に近づけていけるよう努めています。	献立と食材は外部委託であるが、利用者の好みや行事食は、食材を断って対応している。調理や盛り付け・食器拭きなど利用者も一緒に行っている。いなり寿司や漬物づくりをしたり、うなぎを注文したりして食事を楽しむ支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	味の好みや摂取癖の把握に努め、個々に合った栄養摂取や水分確保を実施しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、本人様の身体状況に合った方法で口腔ケアを実施し、定期的に口腔診療、希望者や必要な方には受診頂いています。歯科医師による口腔ケアの勉強会も取り入れています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェック表を記入し記録に残し、排泄パターンの把握・排泄状態の情報の共有を行い、適宜自立に近い排泄ケアについて職員間で話し合っています。	夜間は、一人ひとりの状態でオムツやポータブルトイレの使用もあるが、日中は、トイレでの排泄を基本としてトイレに誘導している。車椅子の人も言葉かけと見守りで歩行器を使い、一人でトイレに行くなど自立に向けた支援に取り組んでいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	個々の排泄パターンの把握に努め、適宜運動や腹部マッサージ等を行い、便秘予防に心がけています。重度の場合は医師と連携し対応しています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴に対する利用者様個々の要望を調査し、共同生活の中でも極力個人の意思を尊重できるような個人入浴を意識し、介助を行っています。	週3回入浴をしている。嫌がる人も無理強いせず、一人でゆっくり入りたい人、入浴順や湯温など一人ひとりの希望を尊重している。ゆずや菖蒲湯で季節を味わったり、湯船から湯があふれ温泉気分を感じてもらうなど入浴を楽しんでいる。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間の安眠の妨げにならない程度に、昼寝や静養を行っています。夜間の睡眠状況について職員間で申し送りなどを通して共有し、「本人様にとっての適度な休息」になれるよう、話し合いをしています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員は薬局から提供される薬情報用紙に目を通し理解に努めています。看護師や先輩職員は後輩職員に対し適宜助言や指導を行い、服薬管理は2名の看護師で実施しています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	初期対応や日々の生活から把握されていく本人像を尊重し、出来る事・やりたい事に取り組める機会を積極的に提供し、家事参加や庭木の手入れ・畑・裁縫など日々の生活の中でのやりがいの提供にも努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍外出は極めて困難な状況で、その分立地条件を活かして敷地内での戸外活動は日常的に取り入れています。また、家族様の理解・協力を得て、同一敷地内の面会室迄お越し頂き、変化をもたせています。	自然に囲まれた広い敷地内や近所の散歩を日課にしている。コロナ制限解除の時にはみんなで紅葉を見に行った。家族の協力を得て高校野球を見に行く人や墓参りをする人、週末に家へ帰る人など一人ひとりの希望にそうよう支援している。	

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	金銭に関して、当施設では持って頂いていません。必要な時に必要な物を購入している。高価な物品は家族様に相談した上購入しています。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様の希望があった際、相手方の了解を得て電話での通話を提供しています。手紙の交換についても投函は職員が代行していますが、自由に行っていただいています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間には多種多様な利用者様がおられる為、刺激的な色遣いは避け、利用者様皆さんが作成した季節のポスター等を掲示するようにしています。案内表示は大きく分かり易く表示掲載しています。	天窓に日よけカーテンをし、冷暖房の風向きに配慮している。行事の写真や利用者で作った季節の作品を落ち着いた雰囲気の色合いになるようにして飾り、換気や消毒、掃除をこまめに行い快適に過ごせるようにしている。新聞や週刊誌を読む人、テレビを見る人など思い思いに過ごしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	過度に交流を推し進めず、自発的な交流を促し、自ら居場所を作って頂く様に仕向けています。難しい場合は、職員が入り心地よい空間を作り込む様に心掛けています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者様の個性を活かし、「自分の家」として考えて頂けるよう、模様替え等もやっています。自分らしさを表現できる物品を模索し、職員は出来る範囲で対応しています。	布団やテレビ・化粧品など使い慣れた物を置いている。花の写真をいっぱい飾っている人、あえて何も飾らない人など自分らしさを大切にしている。家具の配置は任せているが、安全に動けるようにアドバイスをして配置換えの手伝いをしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様によって、出来る事・理解度は様々であり、一人ひとり環境が違うのも当然であります。極力、自立した生活が出来る様に、個別対応とし環境造りをして行きたいと考えています。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 i コーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 揖斐の家		
所在地	岐阜県揖斐川町志津山378番地		
自己評価作成日	令和4年10月17日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.kokensaku.mhl.w.go.jp/21/index.php?action=kouhyou_detai_022_kani=true&I_gyosyoCd=2192600217-00&ServiceCd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地
訪問調査日	令和4年12月20日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域資源である介護予防拠点しずやまを利用されている地域の方との交流を図るなどし、利用者・職員が地域と繋がれる環境を活かせるよう努力している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	介護予防拠点しずやまを地域の活動に利用していただけるよう開放している。また地域自治体と連携し、地域の森林整備等を計画している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	新型コロナの影響により対外的な活動は自粛しているが、地域ケア会議に参加し他事業所や多職種・関係各所との情報交換は行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	新型コロナの影響により開催していないが書面による報告は継続的に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	新型コロナ関連の連絡が多いが密に報告・相談を行っている。また地域ケア会議に参加し他事業所や多職種・関係各所との情報交換は行っている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	定期的に委員会を開催し、基本的な知識の再確認と自己啓発を促している。ケアの方法については思い付きで過度な対応をすることの無いよう、複数人での相談後に対応するような体制をとっている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的に委員会を開催し、基本的な知識の再確認と自己啓発を促している。今後はより利用者にとって安心安楽な施設となるよう、更なる待遇改善を目指す。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員全体への働きかけは出来ていないが、個々のスキルアップの支援を通して学ぶ機会を設けている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者の家族・本人にとって御満足・納得して利用していただける施設となれるよう契約締結時・契約解除時のヒアリングを重要視している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	新型コロナによる影響で機会を設けることは行っていない。個別の面会時や問い合わせ時に要望や意見・思いを傾聴している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に一度の職員会議・各ホームでの会議を始め、代表者・管理者が現場に赴く機会を多く持ち意思・意見を述べやすい環境になるよう努めている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則に則った勤務体系に縛られず、職員個々の事情に配慮した勤務となるよう善処している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員個々の特性を考慮し、職員の個性を生かすことのできる職員配置となるよう善処している。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナによる影響で交流する機会を設けることは難しいが、続けてきた関係性が希薄になってしまうことの無いように情報交換時には積極的に参画している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービス利用開始前の申し込み時と利用開始時に事前面談・調査を実施している。ヒアリングを通して本人だけでなく本人を取り巻く人・物などの環境因子を考慮しながら本人の人生に寄り添えるよう努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービス利用開始前の申し込み時と利用開始時に事前面談・調査を実施している。ヒアリングを通して家族のフラストレーションや希望を理解しお互いに良き協力者となれるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	概ね、本人も家族も介護に疲弊しているケースが多いため、安心・安楽を感じていただけようなケア・報告・連絡となるよう心がけているが状況に応じて臨機応変に対応している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者の家事参加機会を日常的に作り、される一方になることが無いよう努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族が利用者を預けっぱなしになることの無いよう受診や散髪等の個別の外出支援は極力家族対応をお願いしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会者への検査キットの使用や面会室の設置、アクリル板の設置など新型コロナ対策に留意しながら、世間の状況などを鑑みつつ面会等を実施している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関わりの中で生まれる関係性や役割にも注視し、集団の一員としての居場所を見出せるよう努めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約解除後も必要に応じて情報提供や家族・関係各所との情報交換を積極的に実施している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	現在のADLや思いも考慮しつつ、本人の人生に寄り添った支援となるよう努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	現状のみに囚われることの無いよう、客観的に現状を分析するとともに過去と未来を想像しながらサービス内容を検討するよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	グループホームの特性を理解し、集団生活と個別ケアの両立が出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族との信頼関係構築を大切にし、意見を反映させやすい関係性となるよう努めている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	客観的事実の記録を継続するとともに、必要に応じて利用者の表情・言葉・心情などの職員による主観的な記録も残している。それらに基づき、職員間での議論と結論、実践と見直しの繰り返しとなるよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	利用規約・契約内容に縛られることなくニーズがあれば答える事の出来るよう、臨機応変に職員・多職種・他施設関係者・家族と連携連絡を取り対応している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	新型コロナ対策に留意しながら、地域のサークル活動を見学させていただくなどしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	慣れ親しんだかかりつけ医での往診を励行し、施設かかりつけ医以外でも往診対応の受け入れを行っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護職員は医療の専門家として位置づけし、情報が集約されるような体制作りをしている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時には出来るだけ早期に情報伝達が行なわれるよう資料の作成・送付を行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約締結時に時点での本人・家族の意向を確認するとともに、本人の状態の変化に応じて都度、本人・家族・他施設を含めた関係者と連携をとって取り組んでいる。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアル作成と周知徹底をするとともに、急変時に施設内での円滑な連携が行なわれるよう連絡体制の確認を定期的に行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	夜間想定や人員希薄な状況を想定した訓練を実施している。緊急時の地域協力も相互に行えるよう自治会を通して依頼している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	居室などに簾を使用し、入居者それぞれの個人のプライベートを大切にしている。時間を制限せず、入居者様の状態に応じて、ルールの中で共同生活を楽しんでいただいている。人格尊重した言葉かけを意識する様に努めている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日常生活の何気ない会話を大事にして、徐々にコミュニケーションを構築して、本人が得意な事等で自己決定や選択の判断がしやすい環境を作るよう心掛けている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	共同生活の中でも、本人様の訴えや家族様の助言をもとに意見を尊重して要望を聞き入れ提案していこうと考えながら支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	定期的に季節や気温の温暖差に合わせて、衣類の選択をして頂くようにしている。また、家族様の意見も取り入れ、本人様が着たい衣類を着用できるよう支援している。理美容も希望があれば対応している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食後、入居者様のご厚意で、食器拭きやお膳拭きを手伝っています。職員と入居者様が協力した生活でそれぞれの役割を形成している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量を毎食記録するとともに、毎月体重測定を実施している。入居者の特変あれば、インアウトチェックも行い、改善に努めている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、職員が口腔ケア介助を行っている。また定期的に訪問歯科診療を取り入れ、口腔ケア方法の指導や、各入居者の口腔現状を管理されている。歯科医師による職員に対し勉強会も開始している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	本人様のADLや排泄状況に関して、職員同士で話し合い、適切な排泄パターンを見出している。また、QOLの向上に向け、排泄の失敗を減らせるような支援をしている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	職員が便秘予防のための食材の成分等を理解して、入居者等に適切な声掛けをしている。また、排泄状況を確認し、看護師に報告し、必要時には医師の指示のもと服薬を通じて排泄コントロールをしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入居者様のその日の気持ちや健康状態を考慮して入浴の順番を変更したり、本人様の気持ちを尊重して個人浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜間不眠の入居者は、出来るだけ眠剤を処方せず、日中活動量を増やし、夜間の睡眠時間を確保できるよう、取り組んでいる。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬剤の使用や変更点があった場合、看護師と連携して薬剤調整をしている。介護職員も服薬管理の大切さを認識し、変更があればチーム内で共通認識としている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	コロナ禍により外出は控えています。敷地内、及び近所の散歩に時間を掛ける様に心がけている。又、女性陣は、食後の食器拭き、おぼん拭き等、男性陣は模様替え等のお手伝いもやって頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナの影響で外出は出来ていない。敷地内にてリハビリを兼ねて散歩を繰り返し実施。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	当施設ではお金を持って頂いていません。必要なものか否かを職員同士で話し合い購入している。基本的には本人様と相談して、高価な物は家族様に連絡報告し随時購入している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様からの郵便代行や電話のご要望には応える様にしている。又、毎月家族様へ向けたコメント文を通信し、ご本人様の様子や過ごし方特変などを記入している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間は比較的に地味な色合いで落ち着いた雰囲気を出している。廊下にはイベント時の作品や写真を掲載し、季節感を意識した雰囲気作りを意識している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアの席、食事席に関して、気の合う入居者、話が好きな入居者など、席の配置を考えている。また、入居者の特徴を考え、考慮した配置となっている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室内配置に関しては、本人様が落ち着く様な嗜好を考え配置をしている。また、家族様とも話し合いを通じ、随時適応している。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室がわからない利用者様に対しては、大きくフラッグ状に名前を記入し表札代わりにするなどし、自身で行動が決められるようにするなどの工夫をしている。		

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2192600217		
法人名	株式会社 iコーポレーション		
事業所名	グループホーム揖斐川げんき村 長良の家		
所在地	岐阜県揖斐郡揖斐川町378番地		
自己評価作成日	令和4年10月17日	評価結果市町村受理日	令和5年1月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	https://www.kai.gokensaku.nhl.w.go.jp/21/index.php?act=on_kouhyou_detail_022_kani=true&i_gyosvoOd=2192600217-00&SerVicOd=320&Type=search
----------	-------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 旅人とたいようの会		
所在地	岐阜県大垣市橋町1丁目3番地		
訪問調査日	令和4年12月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	コロナ感染予防の為現状では地域の方だけではなく家族との面会なども極力規制させていただいていました。日常生活の中では実践できる家事活動を個々に行い生活活動に参加していただいています。また規制解除の時にはできる限り外出を行い生活が単調にならないよう心がけています。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染予防の為積極的には行われていません。但し日常の散策時など地域の方に挨拶を行い地域の中に一緒に生活していることを知って頂けるように努めています。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	コロナ感染予防の為、地域貢献としての発信は難しい部分も有り棟個別としては積極的には行っていません。コロナ感染の緩和されてきた際感染予防を踏まえたとえどのような活動を行えるか検討します。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	昨年2月以降、運営推進会議は、施設職員のみで実施しております。会議内容は、書面にて、関係各位に郵送させて頂いています。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	町内施設連絡会の開催が行われており、施設周辺との連携、協力関係を築けるようにとりくんでいます。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	委員会を設置し、定期的に勉強会を行い職員の身体拘束に関する知識を高め共通の認識をもてるように務めています。また転倒などのリスクのある利用者もいるため無意識化で行動を制限していないかを確認するよう心掛けています。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	委員会を設置し、定期的に勉強会を行い知識の向上に努め共通の認識をもてるように務めている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	対象となる入居者様には、制度に基づきご家族様または、関係者様と詳細を打ち合わせ、取り組んでいます。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には、契約書及び重要事項説明書に基づき、納得・理解して頂けるまで説明をし、契約を行っている。又、ケアマネによる現場説明も極力実施している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者とのコミュニケーションにて希望されていること傾聴し意見をまとめ会議にて検討を行っています。またご家族様の声が届くように棟玄関口に意見箱を設置し意見が取り入れやすいように心がけています。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	代表者、管理者に適宜疑問点や、改善点等の意見を聞ける環境を作り会議にて検討を行っています。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員会議・ホーム会議を行い、職員の意見交換の場を設け、意見交流を行っている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	介護スタッフの知識の向上の為、社内の勉強会だけでなく、各種講習や勉強会など自己のスキルアップをする機会を持ったと言える。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	コロナ感染予防の為現在は施設での積極的な交流は行っていません。オンライン上での勉強会などは施設として積極的に参加を推奨しています。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居者様同士がコミュニケーションが取れるようレクリエーションや会話ができるような環境作りを行っている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時や来所された際、利用者様の状況や状態、家族様が考える利用者様への介護への要望を確認し、電話、次回来所時、月に1度の家族への手紙にて現状の状態などを連絡しコミュニケーションをとり関係を作る。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	利用者や家族から情報収集にて得た情報を代表者会議にて検討を行い、実際に利用者にとってどのレベルの介助が必要かを安全面を重視しながら行っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員が一方向的に介助を行うのではなく、利用者の残存機能を確認しつつ積極的に日常生活の活動に参加できる環境を作っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	利用者様を支援する為、家族様にも現状の状態を細目に報告を行い協力を得やすい環境を整えている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	現状コロナ感染予防の為面会を制限している為積極的な活動は困難であるが、動画や写真などを使い利用者様の昔の生活拠点での思い出を話す機会を持つようにしている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様同士がコミュニケーションが取れるようレクリエーションや会話ができるような環境作りを行っている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス利用が終了しても、連絡が出来る様に記録は残している。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	集団生活の中で利用者様の日常生活の中で持たれている思いや不安など、会話を傾聴したり動作を観察し、利用者様に寄り添い対応できるように務めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴やサービス利用の経過等を本人様・家族様等から話を傾聴し、個性を活かした生活が過ごせるよう支援をしている。又、チーム内で認識を統一する様心掛けている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の利用者様の記録を残し、利用者の悩みや思い状態の変化に対して改善点を提案し適宜検討し対応を行っている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム会議にて、担当者を中心に会議を行い、ケアマネ・看護師・介護職員とで検討し介護計画を作成している。必要に応じ医師との連携を図る。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個々の利用者様の記録を残し、利用者の悩みや思い状態の変化に対して改善点を提案し適宜検討し介護計画書に反映している。職員同士情報共有のため新規の変更に対しては適宜張り紙や申し送りノートを作っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	スタッフ内の情報共有だけでなく定期的に家族様に利用者様の状態を報告し変化がみられる際はスタッフ、家族等様々な対応ができるように検討している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	コロナ感染予防の為外部のボランティアやレクリエーションなどはなかなか行えていないが、レクリエーションの道具を貸与して頂き日々の生活を楽しめるよう努めている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	主治医による訪問診療(医科、歯科)は定期的に行っている。また急変時なども電話にて指示を頂き対応を頂いている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者の状態の変化を看護師に報告を行い情報の共有を行い健康的な生活を送れるように努めている。また疑問点について相談に乗ってもらい医療的なことに対して指導を頂く。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時などの際、ケア記録をもとに医療機関担当者との協議し、情報交換を行い連携している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	医師、看護師、ケアマネージャーへ状態の変化を早期発見対応できるように心掛けている。利用者の状態はこまめに家族に報告をおこない、今後に対しての思いを傾聴し終末期に向けて行っていける援助について検討しながら行っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者各部屋に緊急時の対応マニュアルを設置し緊急時でもスムーズな対応が行えるように心がけている。また看護師、ケアマネージャーと状態の変化を報告し早期発見に心がけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を定期的に行い緊急時速やかに避難できるよう訓練を行っている。また事務所に避難マニュアルを張りいざと言う時に実践できるように心がけている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	集団生活の場の為どうしても個々のプライベートを保つのが難しいところもあるが、利用者様らしく生活して頂けるよう声掛けや、活動をしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様への声掛け等行い、個人の意思決定を促す様に心掛けている。またやれる事を見つけ出し参加して頂きやすい環境を提供できるように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	集団生活の為今までの生活と違う場面もあり入所時は抵抗を感じられることもあるが、今までの生活とここでの生活の妥協点を見つけ出し利用者様の生活のしやすいリズムを作るように心がけている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪等、本人様・家族様の要望があれば行い、定期的に本人様同意で散髪を実施する事もある。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	月に1度は季節の物を取り入れた食事を一緒に作ったり食べに行ったりしている。また仕込み片づけ等お手伝い頂ける利用者様に積極的に参加できる環境にしている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	定期で行われる体重測定、日々の食事量、水分量など変化がみられる利用者に対し医師、看護師に適宜報告を行い相談指示を頂き対応している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔ケアは毎食後実施。義歯の漂白洗浄は夕食後に実施している。歯科医師、看護師に口腔内の状態を定期的に報告を行い口腔ケアの指導して頂き実施している。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	定期的にトイレ誘導を行い排泄コントロールに努めている。排泄チェック用紙を使用し状態の確認を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	運動を積極的に取り入れ自己排泄を促すようにしています。排便チェック表を使用し状態の確認を行い、ナースに報告を行い、医師との連携をとれるようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	ゆっくりと入浴して頂けるよう心掛けている。又、入浴の際、皮膚の状態・特変の確認をしている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	空調管理は24時間実施し、居室等で快適に過ごされるよう施行している。状況に応じ、ベッドで安心して休息して頂いている。居室に閉じこもりを避けたり、昼夜逆転現象等にならない様声掛けしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	職員間で薬剤情報を共有し、理解・服用をしている。棚、BOXによる服薬管理も実施しており、変化がある場合等は医師・看護師に報告を行い、指示の基支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様一人ひとりの性格・力を把握し、家事手伝いに取り入れている。利用者様の出来ること出来そうな事等の見分けも大切に有り常に意識している。現状は外部のレクリエーションは行っていないがスタッフにて季節のイベントを行っている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ感染予防の為家族との外出は極力控えて頂いている。現状は敷地内や、地区周辺の人が数区内力所を中心に散歩などを行っている。コロナ制限が解除されている際はソーシャルディスタンスのとれる場所を中心に棟利用者全員で外出を行うようにしている。		

グループホーム揖斐川げんき村

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理は施設が行っている。入居者様の希望等があれば、必要に応じ検討をし購入をしている。大きな買い物はご家族様に電話にて都度確認し、極力、利用者様の意向に沿うようにしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望がある際、電話は相手側の了承がある場合提供を行っている。手紙を希望される方はあまりいないが月に1度スタッフから家族へ報告をする際、以前出されていた方には声をかけ便箋をお渡しし一緒に郵送している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	こまめな換気を行いコロナ感染予防に努めている。またカレンダーやレクリエーションの作品などを行い、季節ごとの作品を作ったり飾りつけを行っている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	自席のほかにソファや、ベランダにベンチを置き日光浴を行ったり、他利用者や、スタッフとのコミュニケーションをとったり、自由に活動できるように心がけている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	本人様の思い出の物や、家族様の写真などを飾り、その人らしい居室作りに取り組んでいる。また入所後レクリエーションでの思い出の写真や、アルバムなどを作成してお渡ししている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレや自室移動名札を付けたり、イラストを張ったりと分かるように心がけている。利用者様の嗜好も考慮しながら実施している。		